

## 大男の足跡（洲本市中川原町）

むかし、背の高さが二十丈余り（六十メートル余り）もある大男がいました。

「ひとつ、日本中を旅行してみよう。」

金沢、富山、京都（これらの地にも大男の足跡が残っていたという。）などをまわってきて播磨〈はりま〉へやってきた大男は、海のむこうに見える淡路島をみて、「ああ、なかなかすばらしい島じゃないか、行ってみよう。」と、ひとまたぎで淡路島へ渡ったのである。その男の歩幅〈ほはば〉は七・八里（二八～三二キロメートル）もあった。その時の大男の足が、安坂〈やつさか〉（洲本市中川原町）と塔下〈とうげ〉（五色町鮎原）との境のあたりに、残っていたという。

淡路島へ渡った大男がその後どこへ行ってしまったのか誰も知らない。

